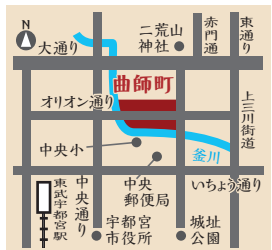




▲アーケード取り付け前のオリオン通り



▲かつてのオリオン通り

この付近は、江戸時代の初めごろ、ヒノキや杉の薄い板を曲げて容器などを作る職人である曲物師が移住してきたことから、曲師町と呼ばれるようになりました。また、町の南側を流れる釜川の御手洗は、二荒山神社にお参りする人が身を清めた場所でした。

曲師町はかつての奥州街道に面しており、家庭用雑貨を扱う荒物屋などが立ち並び商業の町として発展してきました。現在でも、オリオン通りとして多くの皆さんに親しまれています。

釜川より東側のオリオン通りには、三角屋根根のアーケードが掛けられており、路面には、緑や赤、茶などさまざまな色の大理石が敷かれています。また、音響設備、照明設備を備えたイベント広場があり、ジャズなどのイベントが行われるなど、にぎわいを演出しています。一時は、空き店舗が増えるなど寂しくなっていました。最近では、主に高校生や大学生を対象にしたお店が新たに开店し、平日・休日とも、若い人たちが集まるようになっています。

買い物だけでなく、釜川沿いをゆつくりと散策するのも、また一味違った時間を過ごせると思いますので、ご家族や友人と、曲師町にぜひ、お出掛けください。



古いまちの呼び名と
こぼれ話を紹介します



曲師町自治会
会長 大橋 伸さん